



Count on it.

オペレーターズマニュアル

スポーツフィールド・エッジャー
サンドプロ/インフィールドプロ3040 および 5040
トラクションユニット用
モデル番号08766-シリアル番号 311000001 以上

はじめに

この製品は、関連するEU規制に適合しています； 詳細については、DOC シート（規格適合証明書）をご覧ください。

このスポーツフィールド・エッジャーは、サンドプロに取り付けて使用する専門業務用の製品であり、そのような業務に従事するプロのオペレータが運転操作することを前提として製造されています。この製品は、芝生面と舗装されていないダート面との間に明確な境界部を作るための装置です。

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑の掛からないまた適切な方法でご使用ください。この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。

弊社Toro のウェブサイトwww.Toro.com で製品・アクセサリ情報の閲覧、代理店についての情報閲覧、お買い上げ製品の登録などを行っていただくことができます。

整備について、またToro 純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはToro カスタマー・サービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。図 1 にモデル番号とシリアル番号を刻印した銘板の取り付け位置を示します。いまのうちに番号をメモしておきましょう。

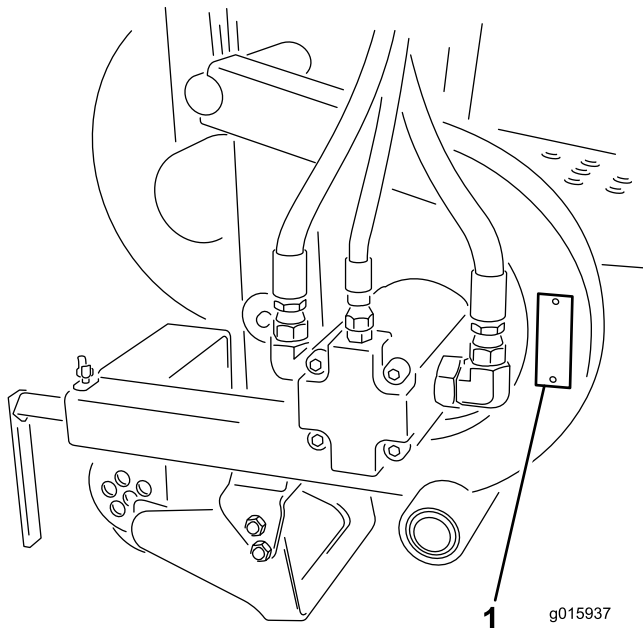


図 1

1. モデル番号とシリアル番号の表示場所

モデル番号 _____

シリアル番号 _____

この説明書では、危険についての注意を促すための警告記号図 2を使用しております。死亡事故を含む重大な人身事故を防止するための注意ですから必ずお守りください。



図 2

1. 危険警告記号

この他に2つの言葉で注意を促しています。**重要**「重要」は製品の構造などについての注意点を、**注**はその他の注意点を表しています。

目次

はじめに	2
安全について	3
運転の前に	3
運転中に	3
保守	3
安全ラベルと指示ラベル	5
組み立て	6
1 後部リモート油圧キットの更新（シリアル番号が 310000001 未満の後部リモート油圧キット）	7
2 クロスチューブ・アセンブリを取り付ける	9
3 カッターヘッド・アセンブリを取り付ける	10
4 ホースガイドを取り付ける	10
5 油圧ホースの敷設を行う	11
6 油圧オイルを点検する	11
製品の概要	12
各部の名称と操作	12
運転操作	13
エッジャーの操作	13
ブレードの食い込み深さを調節する	13
整列ガイドの使い方	13
保守	14
潤滑	14
エッジャーブレードの交換	14
保管	15

安全について

安全な御使用のためには、機械の運転、移動や搬送、保守整備、保管などに係わる人々の日常の意識や心がけ、また適切な訓練などが極めて重要です。不適切な使い方をしたり手入れを怠ったりすると、死亡や負傷などの人身事故につながります。事故を防止するために、以下に示す安全のための注意事項を必ずお守りください。

運転の前に

- ・ 本機をご使用になる前に必ずこのマニュアルとサンドプロのマニュアルの両方をお読みになり、内容をよく理解してください。操作方法をしっかりと身につけ、緊急時にすぐに停止できるようになってください。マニュアルが足りない場合には、モデル番号とシリアル番号を下記までお送りいただければ無料でお送りいたします： The Toro® Company, 8111 Lyndale Avenue South, Bloomington, Minnesota 55420-1196.
- ・ 子供に運転させないでください。大人であっても適切な訓練を受けていない人には運転させないでください。このマニュアルを読み、内容をきちんと理解した人のみが取り扱ってください。
- ・ アルコールや薬物を摂取した状態で運転や操作を行うことは避けてください。
- ・ 作業場所から人を十分に遠ざけてください。
- ・ ガードなどの安全装置は必ず所定の場所に取り付けて使用してください。安全カバーや安全装置が破損したり、ステッカーの字がよめなくなったりした場合には、機械を使用する前に修理や交換を行ってください。また、常に機械全体の安全を心掛け、ボルト、ナット、ネジ類が十分に締まっているかを確認してください。
- ・ サンドルやテニスシューズ、スニーカーやショーツでの作業は避けてください。また、だぶついた衣類は機械にからみつく危険がありますから着用しないでください。作業には、必ず長ズボンと頑丈な靴を着用してください。安全メガネ、安全靴、およびヘルメットの着用をおすすめします。地域によってはこれらの着用が義務付けられています。

運転中に

- ・ 締め切った場所でエンジンをかけるときは、必ず十分な換気を確保してください。エンジンからの排気は有毒であり、場合によっては死亡事故につながります。

- ・ 車両は一人乗りです。絶対に人を乗せないでください。
- ・ エンジンの始動や運転操作は必ず着席して行ってください。
- ・ 運転には十分な注意が必要です。転倒や暴走事故を防止するために以下の点にご注意ください：
 - － 作業は日中または十分な照明のもとで行う。
 - － ゆっくりとした走行速度で運転し、隠れた穴などの見えない障害に警戒を怠らない。
 - － 小さな旋回をするときや法面で旋回するときは、走行速度を十分に落とす。
 - － 急停止や急発進をさける。
 - － バックするときには、後方の安全に注意し、マシンの後部に人がいないことを十分に確認する。
 - － 道路付近で作業するときや道路を横断するときは周囲の交通に注意する。常に道を譲る心掛けを。
- ・ 斜面でエンストしたり、坂を登りきれなくなったりした時は、絶対にUターンしないでください。必ずバックで、ゆっくりと、まっすぐに下がって下さい。
- ・ **大丈夫だろう、は非常に危険！**人や動物が突然目の前に現れたら**すぐに作業を停止しましょう**。注意力の分散、アップダウン、機械から飛び出す異物など思わぬ危険があります。周囲に人がいなくなるまで作業を再開しないでください。
- ・ 機械が落雷を受けると最悪の場合死亡事故となります。稲光が見えたり雷が聞こえるような場合には機械を運転しないで安全な場所に避難してください。
- ・ エンジン作動中や停止直後は、エンジン本体やマフラーが熱くなっていますから手を触れないでください。触れると火傷を負う危険があります。

保守

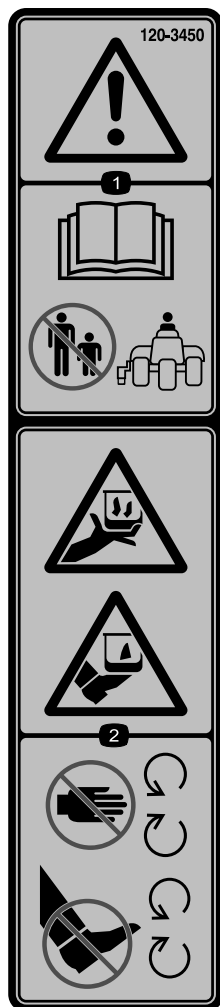
- ・ 整備・調整・格納作業の前には、エンジンが不意に作動することのないよう、必ずキーを抜き取っておいてください。
- ・ このマニュアルに記載されている以外の保守整備作業は行わないでください。大がかりな修理が必要になった時や補助が必要な時は、Toro 正規代理店にご相談ください。

- ・ 火災防止のため、エンジンの周囲に、余分なグリス、草や木の葉、ホコリなどが溜まらないようご注意ください。高温のエンジンに水をかけたり、電装部に水を掛けたりしないでください。
- ・ ボルト、ナット、ネジ類は十分に締めつけ、常に機械全体の安全を心掛けてください。
- ・ 油圧系統のラインコネクタは頻繁に点検してください。油圧を掛ける前に、油圧ラインの接続やホースの状態を確認してください。
- ・ 油圧のピンホール・リークやノズルからは作動油が高圧で噴出しているので、絶対に手などを近づけないでください。リークの点検には新聞紙やボール紙を使う。高圧で噴出する作動油は皮膚を貫通し、身体に重大な損傷を引き起こす。万一、油圧オイルが体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受けないと壊疽（えそ）を起こします。
- ・ 油圧系統の整備作業を行う時は、必ずエンジンを停止し、アタッチメントを下降させてシステム内部の圧力を完全に解放してください。
- ・ エンジンを回転させながら調整を行わなければならない時は、手足や頭や衣服をファンやその他の可動部に近づけないように十分ご注意ください。
- ・ ガバナの設定を変えてエンジンの回転数を上げないでください。Toro 正規代理店でタコメータによるエンジン回転数検査を受け、安全性と精度を確認しておきましょう。
- ・ オイルの点検や補充は、必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- ・ 製品を Toro 製品として維持し、いつも最高の性能を発揮できるよう、必ず Toro の純正部品をご使用ください。**他社の部品やアクセサリは絶対にご使用にならないでください。**必ずToroの商標を確かめてご購入ください。他社の部品やアクセサリを使用すると製品保証が適用されなくなる可能性があります。

安全ラベルと指示ラベル



以下のラベルや指示は危険な個所の見やすい部分に貼付してあります。読めなくなったものは必ず新しいものに貼り替えてください。



120-3450

1. 警告：オペレーターズマニュアルを読んで運転し、周囲に人を近づけないこと。
2. エッジャーによる切傷や手足の切断の危険：可動部に手足を近づけないこと；使用時にはすべての安全カバー類を正しく取り付けておくこと。

組み立て

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

手順	内容	数量	用途
1	小さい T 字フィッティング	1	油圧装置を更新する
	油圧オイルキャップ	1	
	大きい油圧ホース (フィッティング付き)	1	
	細い油圧ホース	1	
2	クロスチューブ・アセンブリ	1	クロスチューブ・アセンブリを取り付けます
	ねじ (3/8 x 3 インチ)	4	
	平ワッシャ	4	
	ロックナット (3/8 インチ)	4	
3	カッターヘッド・アセンブリ	1	カッターヘッド・アセンブリを取り付けます
	ヒッチ・ピン	1	
4	ホースガイド	1	ホースガイドを取り付けます
	フランジ・ナット	1	
5	必要なパーツはありません。	-	油圧ホースの敷設を行います
6	必要なパーツはありません。	-	油圧オイルを点検します

その他の付属品

内容	数量	用途
パーツカタログ	1	パーツ番号を調べるための資料です。
オペレーターズマニュアル	1	ご使用前にお読みください。
認証証明書	1	規格適合認定書

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

注 スポーツフィールド・エッジャーを使うには、トラクションユニットに後部リモート油圧キット (Model 08781) を搭載する必要があります。後部リモート油圧キット (Model 08781) のシリアル番号が 310000001 未満の場合には、後部リモート油圧キットを更新する必要があります。「組み立て」の「手順1」へ進む。

1

後部リモート油圧キットの更新

(シリアル番号が 310000001 未満の後部リモート油圧キット)

この作業に必要なパーツ

1	小さい T 字フィッティング
1	油圧オイルキャップ
1	大きい油圧ホース(フィッティング付き)
1	細い油圧ホース

マシンの準備を行う

機体全体をていねいに洗浄する。新しい機器がぴったりと嵌るように、また油圧システム内部にごみや異物が絶対に混入しないようにするために、汚れを完全に落としてください。

エアクリーナを取り外す

1. エアクリーナの周囲をきれいに清掃する。
2. ホースについているラジエター用のクランプをゆるめてクランプをホース部にずらす。
3. エアクリーナを固定しているボルトのうちの1本を外す。このボルトは捨てずに保管する。
4. エアクリーナのカバーとフィルタを取り外す (図 3)。

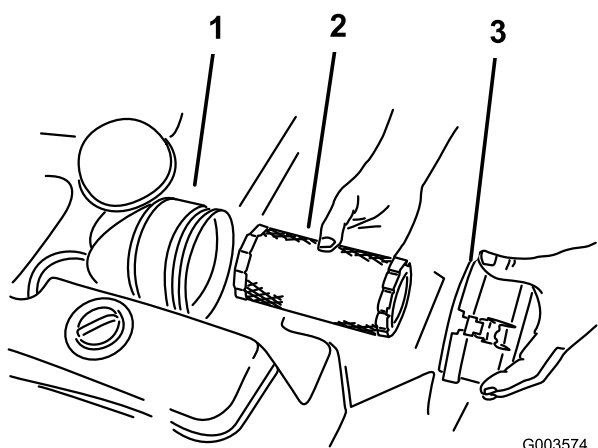


図 3

1. エアクリーナのキャニスタ
2. エアフィルタ
3. キャニスタのカバー

5. エアクリーナキャニスタからホースを外す。

6. エアクリーナのストラップをゆるめ、キャニスタから引き抜く (フィルタを抜き取った側から引き抜く) (図 4)。

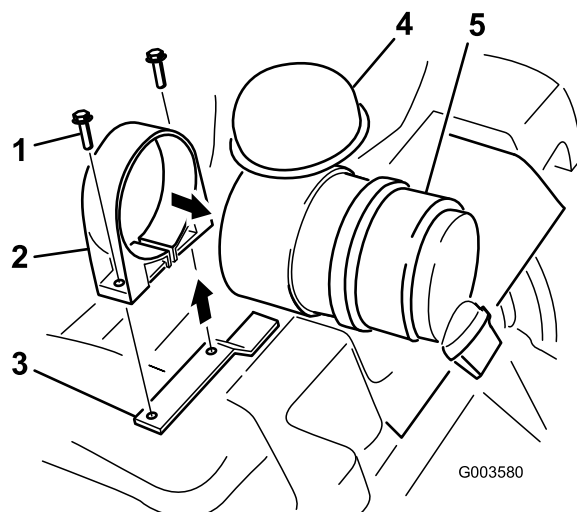


図 4

1. ボルト
2. エアクリーナのストラップ
3. 機体フレーム
4. キャップ
5. エアクリーナのキャニスタ

7. 外したホースの口から異物が内部に入らないように、ホースの口にカバーを掛けるか口をウェスで覆うなどする。
8. ストラップを機体フレームに固定しているもう一方のボルトを外す。このボルトは捨てずに保管する。

油圧オイルタンクとシュラウドを外す

1. タンク内部のオイルを抜き取る。手順についてはオペレーターズマニュアルを参照のこと。
2. 機体後部を持ち上げ、サポートブロックを当てて後部を浮かした状態で支える。ジャッキアップ手順についてはオペレーターズマニュアルを参照のこと。
3. 左後ろのタイヤを取り外す。
4. 左ホイール用のシュラウドをフレームに固定しているフランジヘッドねじ (4本) を外す (図 5)。シュラウドと金具類を外して保管する。

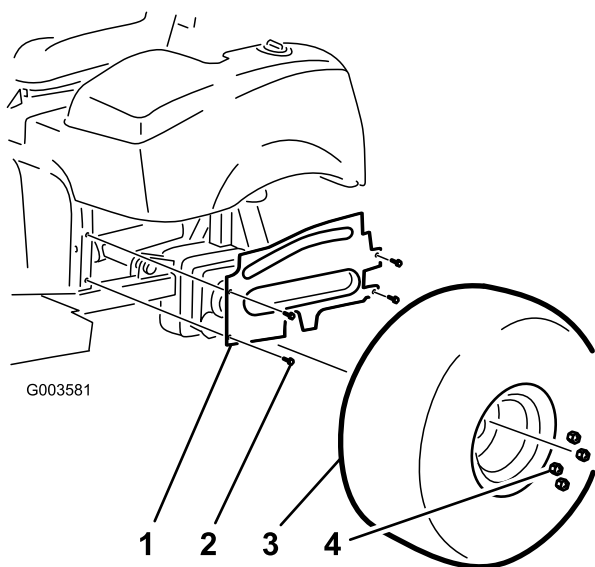


図 5

- | | |
|----------------|--------|
| 1. 左ホイール用シュラウド | 3. タイヤ |
| 2. フランジヘッドねじ | 4. ナット |

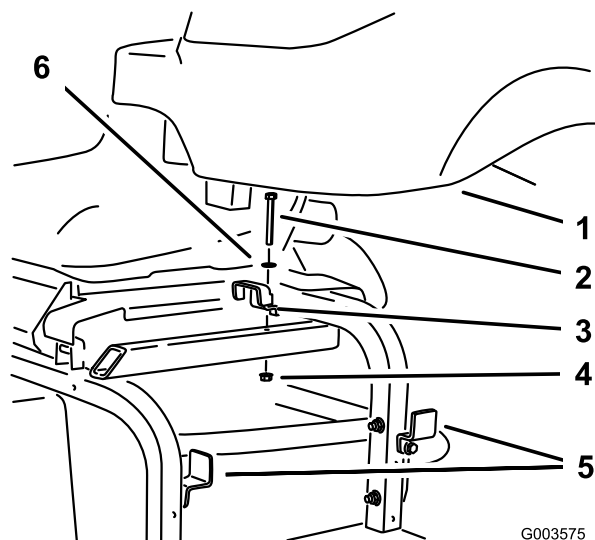


図 7

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 油圧オイルタンク | 4. ナット |
| 2. ボルト | 5. 側部ブラケット |
| 3. 上部ブラケット | 6. ワッシャ |

5. 左前スクリーンをフレームに固定しているフランジヘッドねじ (2本) を外す (図 6)。スクリーンと金具類を外して保管する。

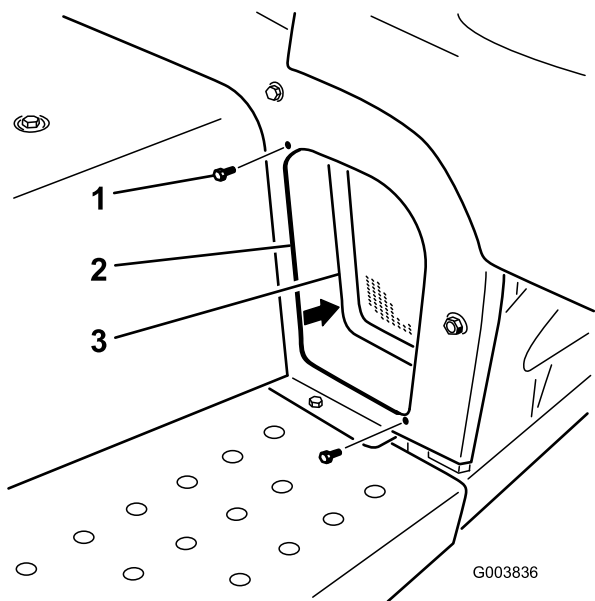


図 6

- | | |
|--------------|------------|
| 1. フランジヘッドねじ | 3. 左前スクリーン |
| 2. フレーム | |

新しい油圧機器を取り付ける

1. カップラフィッティングと油圧ラインのポートに接続されている短い油圧ラインを外す (図 8)。

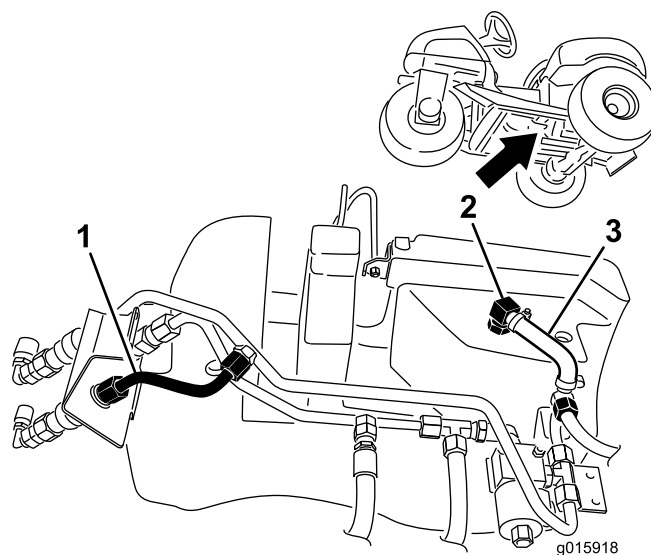


図 8

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 短い油圧ライン | 3. 細いモールドタイプのホース |
| 2. 小さいエルボフィッティング | 4. 細い油圧チューブ |

6. タンクに入っていく油圧ラインを外す。

7. 機体フレームから油圧オイルタンクの上部ブラケットを外し、フレーム側部についているブラケット (2つ) をゆるめる (図 7)。タンクを外す: タンクは捨てずに保管するが、上ブラケット、ボルト、ワッシャ、ナットは捨てる。

2. モールドタイプの細いホースを、油圧タンクの小さいエルボフィッティングと細い油圧チューブから外す (図 8)。クランプは捨てずに保管するがホースは捨てる。
3. 油圧オイルタンクから小さいエルボフィッティングを外す (図 8)。

- 新しい小さい T 字フィッティングを油圧オイルタンクに取り付ける。フィッティングは 図 9 のように組み付ける。

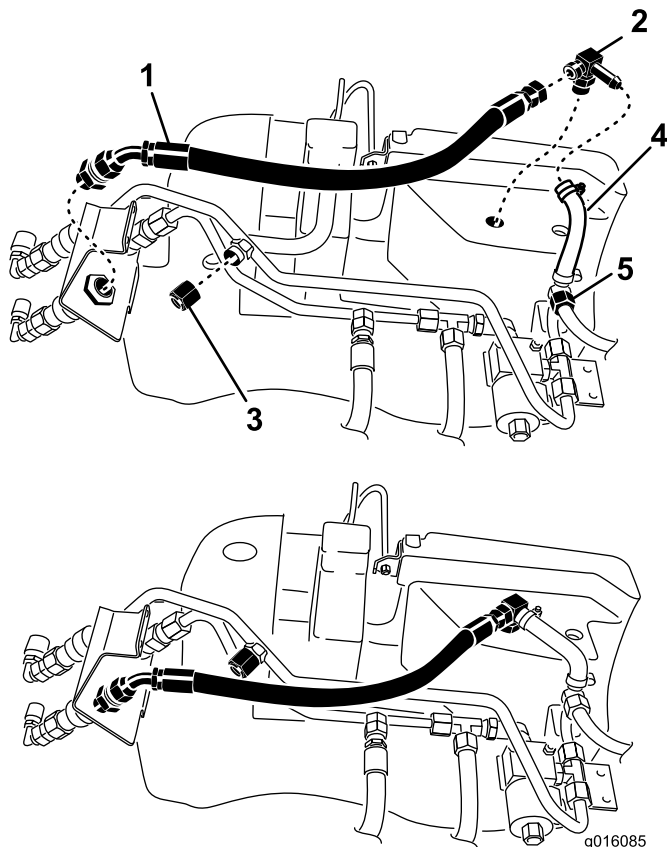


図 9

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. ホース | 4. 細いモールドタイプのホース |
| 2. 小さい T 字フィッティング | 5. 細い油圧チューブ |
| 3. 油圧オイルキャップ | |

- 先ほど取り外したクランプを使って、新しい小さい細いモールドタイプのホースを新しい T 字フィッティングと細い油圧チューブに接続する（図 9）。
- 油圧ラインのポートに油圧キャップを取り付ける（図 9）。
- 新しい油圧ホースをカップラフィッティングと小さい T 字フィッティングに仮づける（図 9）。

油圧オイルタンクを取り付ける。

- 既存のホースを油圧タンクに元通りに取り付ける。
- 油圧オイルタンクをフレームに取り付け、さきほどゆるめた側部ブラケットを締め付ける。

全部の接続部を締め付ける

注 取り付けしたホースやラインが、鋭利な部分、高温部、可動部などに一切接触していないことを確認してください。

- 全部の油圧ラインとホースの取り付けができたなら、各接続部の締め付けを行う。
- タンクのフィッティングの締め付けはレンチでバックアップする。

スクリーン、シュラウドとタイヤを取り付ける。

- フレームに左前スクリーンを取り付ける。
- フレームに前シュラウドを取り付ける；フランジヘッドねじ4本を使用する。
- 左ホイール用のシュラウドをフレームに固定するフランジヘッドねじ（4本）を取り付ける。
- 左後ろのタイヤを取り付ける。
- 機体を床面に降ろす。
- リアヒッチシールドを取り付ける。
- エアクリーナを取り付ける。
- 油圧オイルタンクに適切なオイルを、ディップスティックのくびれマーク位置までゆっくりと補給する。

注 入れすぎないこと。

2

クロスチューブ・アセンブリを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	クロスチューブ・アセンブリ
4	ねじ(3/8 x 3 インチ)
4	平ワッシャ
4	ロックナット(3/8 インチ)

手順

注 サンドプロにミッドマウントツールシステムが搭載されている場合には、サドルブラケット（とフットガードがついている場合にはフットガードも）を機体に固定している金具類を取り外します。サドルブラケットおよびフットガードとそれらの固定具を外して捨ててください（図 10）。そして、ミッドマウントツールシステムが落ちないように何かで支えてください。

3

カッターヘッド・アセンブリを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	カッターヘッド・アセンブリ
1	ヒッチ・ピン

手順

1. クロスチューブに、カッターヘッドピボットチューブを通す（図 12）。

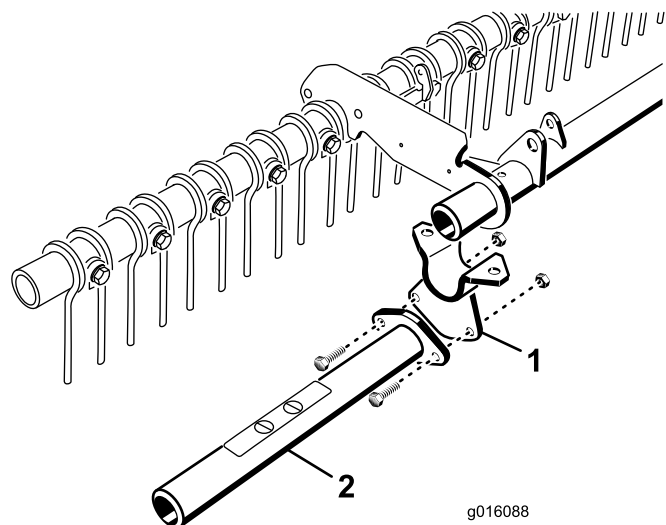


図 10

1. サドルブラケット
2. フットガード

1. 機体の左側から、クロスチューブ・アセンブリを機体の下に差し入れ、取り付けブラケットの穴をフレームチューブの穴に合わせる（図 11）。

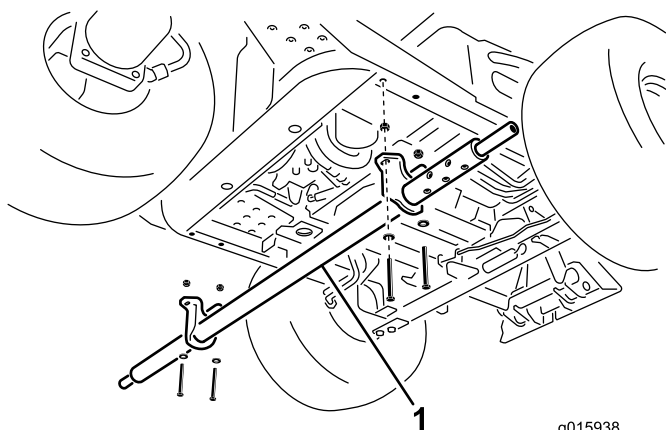


図 11

1. クロスチューブ・アセンブリ

2. クロスチューブ取り付けブラケットをフレームチューブに固定する；ねじ4本（3/8 x 3 インチ）、平ワッシャ、ロックナット（3/8 インチ）を使用する（図 11）。

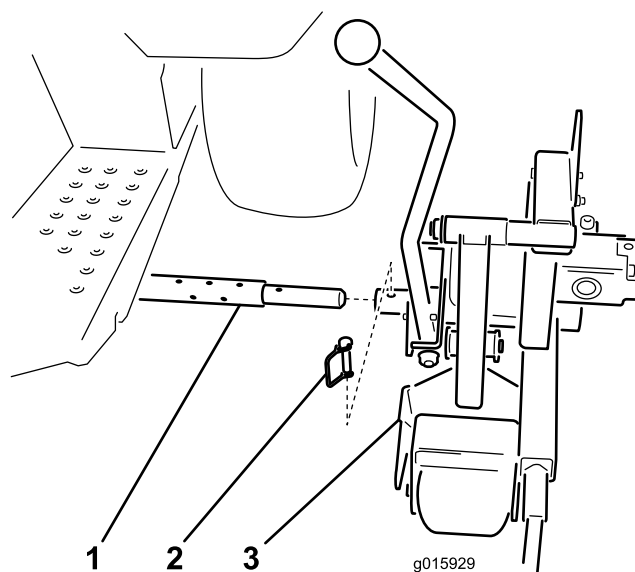


図 12

1. クロスチューブ
2. ヒッチピン
3. カッターヘッド

2. カッターヘッドをクロスチューブにヒッチピンで固定する（図 12）。

4

ホースガイドを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ホースガイド
1	フランジ・ナット

手順

1. 油圧タンク用のクランプをフレームに固定しているボルト、ワッシャ、ナットを外す（図 13）。外したクランプ、ボルト、ワッシャ、ナットは捨てる。

注 油圧タンク用のクランプは前の作業ですでに取り外されているかもしれません。

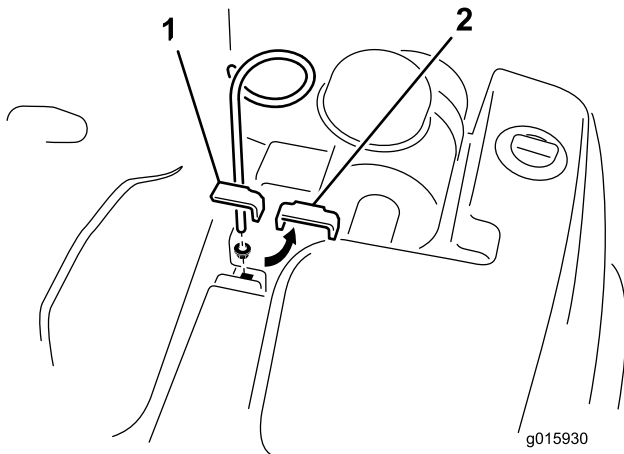


図 13

1. ホースガイド
2. 油圧タンク用クランプ

2. フランジナット（付属部品）を使って、ホースガイドを取り付ける。ホースガイドは 図 13 のように組み付ける。

5

油圧ホースの敷設を行う

必要なパーツはありません。

手順

1. 油圧ホースをホースガイドに通し、機体後方へ導く（図 14）。

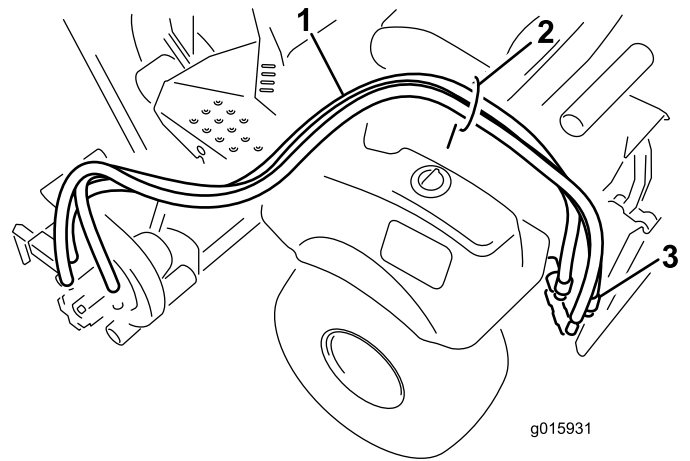


図 14

1. 油圧ホース
2. ホースガイド
3. 後リモートコネクタ

2. ホースを後リモートコネクタに接続する（図 14）。

注 ホースはどちらのコネクタにでも接続できます。

6

油圧オイルを点検する

必要なパーツはありません。

手順

1. 平らな場所に駐車する。
2. エンジンを停止させ、スロットル・コントロールをSLOW位置にし、キーをOFF位置に回し、安全のためにキーを抜き取る。
3. 異物をタンクに入れないよう、油圧オイルタンクのキャップ取り付け部周辺をウェスできれいに拭く（図 15）。

製品の概要

各部の名称と操作

ハンドル

このハンドルでエッジャーの上げ下ろしを行います（図 17）。

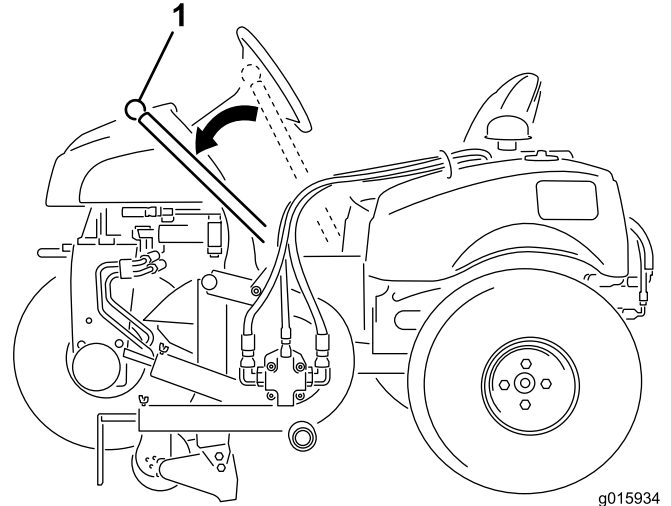


図 17

1. ハンドル

整列ガイド

調整ねじをゆるめて、整列ガイドを希望する位置までずらす（図 18）。

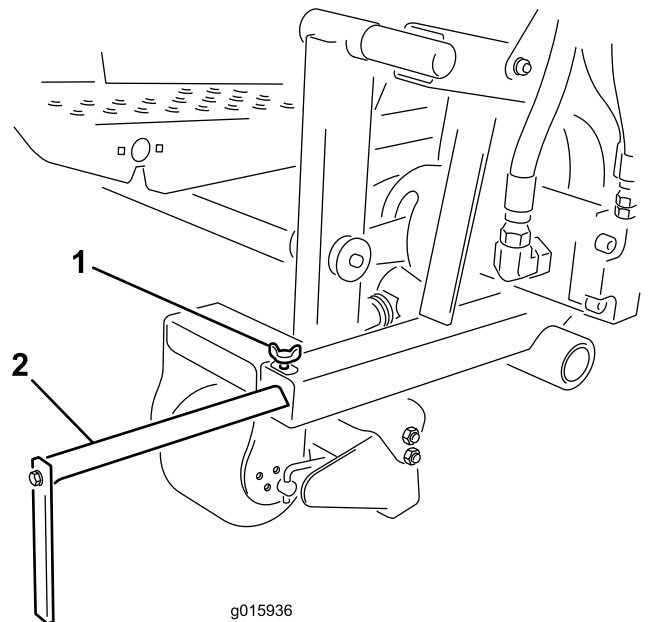


図 18

1. 調整ねじ

2. 整列ガイド

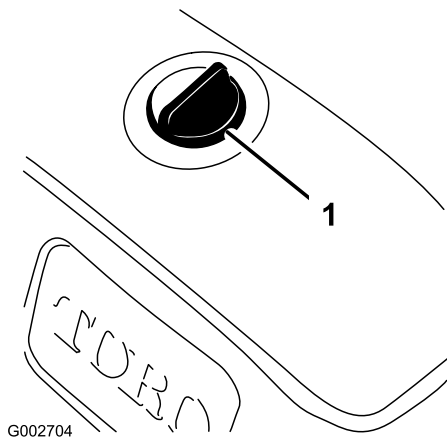


図 15

1. 油圧オイルタンクのキャップ

4. タンクからキャップを取る。
5. 補給口の首からディップスティックを抜き、きれいなウェスでいねいに拭う。
6. もう一度首に差し込んで引き抜き、オイルの量を点検する。

注 マーク位置（ディップスティックのくびれている所）まであればよい（図 16）。

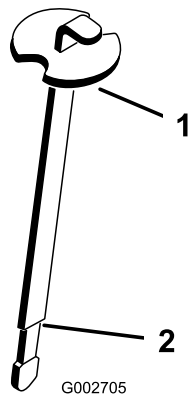


図 16

1. ディップスティック 2. FULL マーク

7. 量が不足している場合には、適切なオイルを、ディップスティックの FULL マーク位置までゆっくりと補給する。

注 入れすぎないこと。

8. タンクにキャップを取り付ける。

注 油圧回路の汚染を防止するため、オイルの缶を開ける前に、缶のふたの表面をきれいに拭ってください。また、給油ホースやロートなども汚れがないようにしてください。

運転操作

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

エッジャーの操作

1. エンジンをつける。
2. ハンドルを外側に倒してエッジャーのブレードを地表面まで下降させる（図 17）。
3. リモート油圧コントロールノブを引くとブレードに油圧がかかる（図 19）。

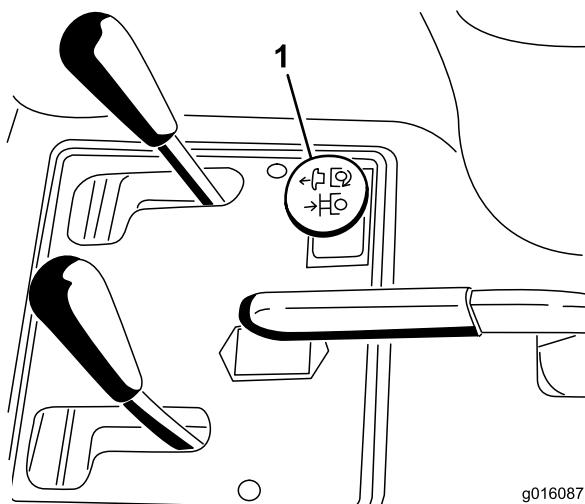


図 19

1. リモート油圧コントロールノブ

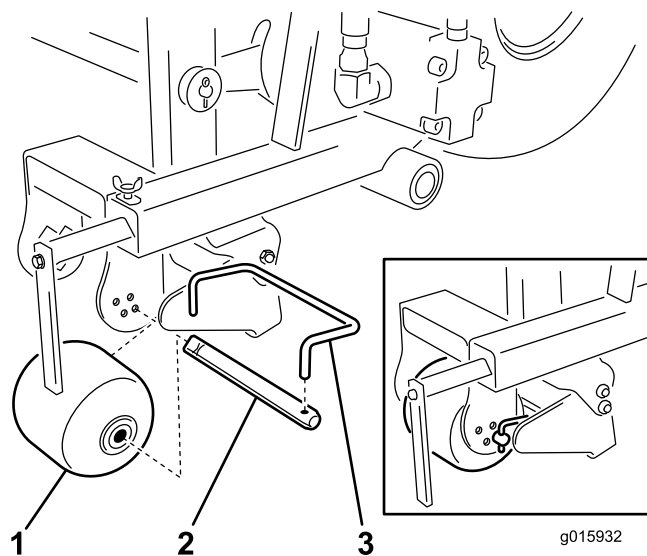


図 20

1. ローラ
2. ローラのシャフト
3. スクレーパーのロッド

4. ローラからシャフトを外す（図 20）。
5. 希望する深さにローラをセットしてシャフトを挿入する。始めは低い（15mm～40mm）設定からスタートする。

注 ローラを下げるとエッジング深さは浅くなります。

6. 設定が決まったら、スクレーパロッドとローラをロックする。

4. ゆっくりと前進を開始（3 km/h 以下）する。
5. エッジング作業を終了するには：
 - ・ ハンドルを外側に倒してエッジャーのブレードを移動走行位置に上昇させる（図 17）。
 - ・ リモート油圧コントロールノブを押すとブレードの油圧が解除される（図 19）。

ブレードの食い込み深さを調節する

1. スロットル・コントロールをSLOW位置にし、キーをOFF位置に回し、安全のためにキーを抜き取る。
2. エッジャーを移動走行位置まで上昇させる。
3. ローラのシャフトからスクレーパのロッドを外す（図 20）。

整列ガイドの使い方

整列ガイドは、目視で直線を確認する（目標ラインを確認する）のに利用するものです。

1. 調整ねじをゆるめ、整列ガイドを前後に移動させて希望する位置に調整する（図 18）。
2. ガイドを目標とする線や糸に合わせる。
3. ねじを締め付ける。

保守

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

潤滑

100 運転時間ごとに、所定のグリス・ニップルにNo. 2汎用リチウム系グリスを注入します（図 21）。

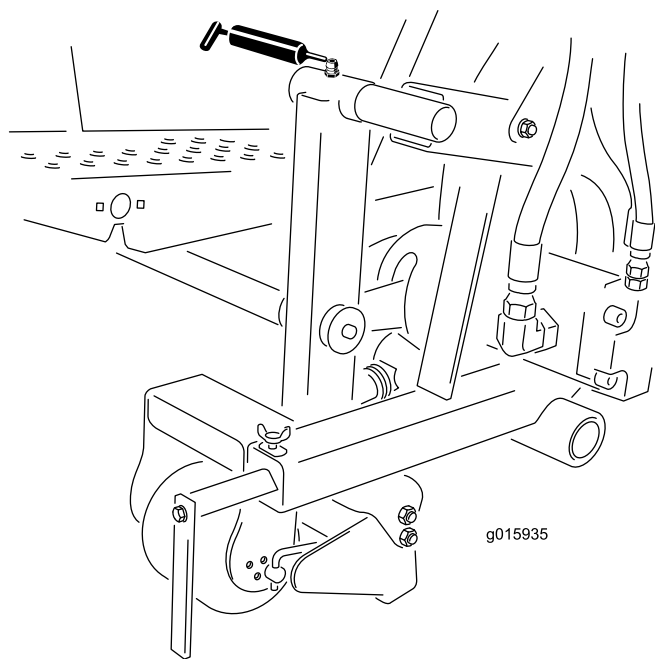


図 21

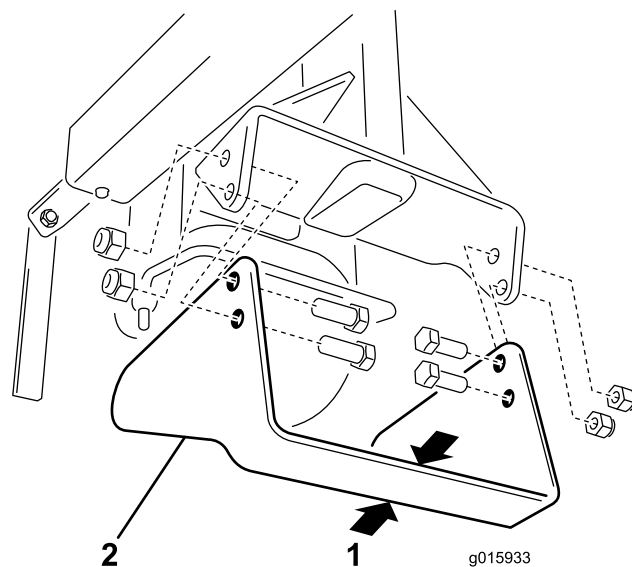


図 22

1. ブレードの幅

2. エッジャーブレード

4. おなじねじとナットを使って新しいブレードを取り付ける。

エッジャーブレードの交換

エッジャーブレードは頻繁に点検し、ブレードの幅が 32 mm まで磨耗したら交換してください（図 22）。

1. エンジンを停止させ、スロットル・コントロールをSLOW位置にし、キーをOFF位置に回し、安全のためにキーを抜き取る。
2. エッジャーを移動走行位置まで上昇させる。
3. ブレードをカッターアームに固定している4本のねじとナットを外す（図 22）。

保管

- ・ 洗車する：シール部分やベアリングに浸水させる危険を避けるために、洗車には圧力洗浄器を使わず、普通のホースを使用します。
- ・ ボルトナット類にゆるみながいか点検し、必要な締め付けを行う。
- ・ グリスアップを行う。余分なグリスはふき取る。
- ・ エッジャーブレードを点検し、必要に応じて補給する。



Toro 製品の総合品質保証

限定保証

保証条件および保証製品

Toro® 社およびその関連会社であるToro ワランティー社は、両社の合意に基づき、Toro 社の製品（「製品」と呼びます）の材質上または製造上の欠陥に対して、2年間または1500運転時間のうちいずれか早く到達した時点までの品質保証を共同で実施いたします。この保証は、エアレータ以外のすべての機器に適用されます（エアレータ製品については別途保証があります）。この品質保証の対象となった場合には、弊社は無料で「製品」の修理を行います。この無償修理には、診断、作業工賃、部品代、運賃が含まれます。保証は「製品」が納品された時点から有効となります。
*アワーメータを装備している機器に対して適用します。

保証請求の手続き

保証修理が必要だと思われる場合には、「製品」を納入した弊社代理店（ディストリビュータ又はディーラー）に対して、お客様から連絡をして頂くことが必要です。連絡先がわからなかったり、保証内容や条件について疑問がある場合には、本社に直接お問い合わせください。

Commercial Products Service Department
Toro Warranty Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196
E-mail: commercial.warranty@toro.com

オーナーの責任

「製品」のオーナーは、オペレーターズマニュアルに記載された整備や調整を実行する責任があります。これらの保守を怠った場合には、保証が受けられないことがあります。

保証の対象とならない場合

保証期間内であっても、すべての故障や不具合が保証の対象となるわけではありません。以下に挙げるものは、この保証の対象とはなりません：

- Toroの純正交換部品以外の部品を使用したことまたはToroの純正部品以外のアクセサリや製品を搭載して使用したことが原因で発生した故障や不具合。これらの製品については、別途製品保証が適用される場合があります。
- 推奨された整備や調整を行わなかったことが原因で生じた故障や不具合。オペレーターズマニュアルに記載されている弊社の推奨保守手順に従った適切な整備が行われていない場合。
- 運転上の過失、無謀運転など「製品」を著しく過酷な条件で使用したことが原因で生じた故障や不具合。
- 通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類。但しその部品に欠陥があった場合には保証の対象となります。通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類とは、ブレイキ・パッドおよびライニング、クラッチ・ライニング、ブレード、リール、ベッドナイフ、タイン、点火プラグ、キャスタホイール、タイヤ、フィルタ、ベルトなどを言い、その他、液剤散布用の部品としてダイヤフラム、ノズル、チェックバルブなどが含まれます。
- 外的な要因によって生じた損害。外的な要因とは、天候、格納条件、汚染、弊社が認めていない冷却液や潤滑剤、添加剤、肥料、水、薬剤の使用などが含まれます。
- 通常の使用に伴う運転音や振動、汚れや傷、劣化。
- 通常の使用に伴う「汚れや傷」とは、運転席のシート、機体の塗装、ステッカー類、窓などに発生する汚れや傷を含みます。

米国とカナダ以外のお客様へ

米国またはカナダから輸出された製品の保証についてのお問い合わせは、お買いあげのToro 販売代理店（ディストリビュータまたはディーラー）へおたずねください。代理店の保証内容にご満足いただけない場合はToro輸入元にご相談ください。輸入元の対応にご満足頂けない場合はToro ワランティー社へ直接お問い合わせください。

部品

定期整備に必要な部品類（「部品」）は、その部品の交換時期が到来するまで保証されます。この保証によって取り付けられた部品は、この製品保証により保証期間終了まで保証され、取り外された部品は弊社の所有となります。部品やアセンブリを交換するか修理するかは弊社が行います。弊社が保証修理のために再製造した部品を使用する場合があります。

注記：ディーブ・サイクル・バッテリーの保証について：

ディーブ・サイクル・バッテリーは、その寿命中に放出することのできるエネルギーの総量（kWh）が決まっています。一方、バッテリーそのものの寿命は、使用方法、充電方法、保守方法により大きく変わります。バッテリーを使用するにつれて、完全充電してから次に完全充電が必要になるまでの使用可能時間は徐々に短くなってゆきます。このような通常の損耗を原因とするバッテリーの交換は、オーナーの責任範囲です。本製品の保証期間中に、上記のような通常損耗によってオーナーの負担によるバッテリー交換の必要性がでてくることは十分に考えられます。

保守整備に掛かる費用はオーナーが負担するものとします

保証の対象とならない部品や作業など：エンジンのチューンナップ、潤滑、洗浄、磨き上げ、フィルタや冷却液の交換、推奨定期整備の実施などは「製品」の維持に必要な作業であり、これらに関わる費用はオーナーが負担します。

その他

上記によって弊社代理店が行う無償修理が本保証のすべてとなります。

両社は、本製品の使用に伴って発生しうる間接的偶発的結果的損害、例えば代替機材に要した費用、故障中の修理関連費用や装置不使用に伴う損失などについて何らの責も負うものではありません。両社の保証責任は上記の交換または修理に限らせていただきます。その他については、排気ガス関係の保証を除き、何らの明示的な保証もお約束するものではありません。

商品性や用途適性についての黙示的内容についての保証も、本保証の有効期間中のみに限って適用されます。米国内では、間接的偶発的損害にたいする免責を認めていない州があります。また黙示的な保証内容に対する有効期限の設定を認めていない州があります。従って、上記の内容が当てはまらない場合があります。

この保証により、お客様は一定の法的権利を付与されますが、国または地域によっては、お客様に上記以外の法的権利が存在する場合もあります。

エンジン関係の保証について：

米国においては環境保護局（EPA）やカリフォルニア州法（CARB）で定められたエンジンの排ガス規制および排ガス規制保証があり、これらは本保証とは別個に適用されます。くわしくはエンジンメーカーのマニュアルをご参照ください。上に規定した期限は、排ガス浄化システムの保証には適用されません。くわしくは、オペレーターズマニュアル またはエンジンメーカーからの書類に記載されている、エンジンの排ガス浄化システムの保証についての説明をご覧ください。